

平成26年度第3回広島市都市デザインアドバイザー会議

日 時 平成27年3月6日（金）15:30～

場 所 広島市役所本庁舎14階第7会議室

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

それでは定刻となりましたので、ただいまから平成26年度第3回広島市都市デザインアドバイザー会議を開会いたします。

会議に先立ちまして、都市計画担当部長香川から、一言、御挨拶させていただきます。

○香川都市計画担当部長

皆様、お疲れでございます。都市計画担当部長の香川でございます。

お忙しい中、アドバイザー会議に御出席いただきありがとうございます。本市では、広島歴史を伝える魅力的な資源、また豊かな水と緑に恵まれた自然を生かした個性的で魅力ある景観の形成を図り、美しく品のある都市景観の創出に取り組んでおります。本日の議事になっております相生橋、平和記念公園とバス停上屋等の施設については、国指定の名勝であり、また世界遺産である原爆ドームを含む平和記念公園の周辺地区内にあることから、原爆ドームと慰霊碑を貫く南北軸の眺望景観の確保など、平和都市を象徴する景観づくりを念頭に、整備を進めていく必要があると考えております。

本日のアドバイザー会議は、昨年末に開催した会議に引き続き行われるものです。前回のアドバイスを踏まえ改善されたデザインについて、本日、皆様方からさらなるアドバイスをいただくことにより、相生橋やバス停上屋のデザインがよりよいものになり、まさに平和都市広島を象徴する平和記念公園の周辺にふさわしい品格ある雰囲気と、都市的なにぎわいとバランスのとれた都市景観を形成する施設になるのではないかと考えております。きたんのない意見をどんどんいただければと思っております。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

それでは、早速、議事に入らせていただきます。

まず資料の確認をさせていただきます。お手元の資料全部で6点ございます、会議次第、委員名簿、事業者・広島市出席者名簿、配席図、議事資料1、議事資料2、全部で6点ほどございます。資料の漏れ等はございませんでしょうか。

本日は委員8名の全員の御出席をいただいております。出席者については、お手持ち

の委員名簿と配席図をもって御紹介にかえさせていただきます。本日の案件を説明する広島市の関係課職員及び設計業務受託者の紹介ですが、これも同様にお配りしております出席者名簿にかえさせていただきますと思います。

本日の議事について説明をさせていただきます。本日の議事は「相生橋ほか1橋塗装補修事業」及び「平和記念公園ほか1箇所バス停上屋整備事業」の2件でございます。

「相生橋ほか1橋塗装補修事業」については塗装の塗り替えで、前回の会議において、通常3回の審議を2回とすることで承認をいただいております。つきましては本日の審議が最終の報告となります。

それでは、案件の検討に入っていきたいと思います。ここからの議事進行については岡河座長、よろしく願いいたします。

○岡河座長

それでは議事の1番、相生橋ほか1橋塗装補修工事について説明をお願いいたします。

○紙田中区地域整備課長

中区役所地域整備課長の紙田と申します。どうぞよろしくお願い致します。

議事資料1「相生橋ほか1橋塗装補修事業」について、1ページをお開きください。

まず、前回会議での議題及び決定事項ですが、橋の色彩検討にあたっては、広島市景観計画の方針を基本とし、平和記念公園の落ちついた雰囲気と調和するよう高明度、低彩度を基調とし、相生橋の現在の塗装色彩、架橋位置周辺の状況、景観形成の方針を踏まえ、比較案として1案から4案を立案しました。

この案に対し委員の先生方より、左下に前回会議における御意見のまとめとして記載しておりますが、塗装色彩は周辺環境と調和し、長年親しんだ色彩でもあるため、第1案の青色系がよいと考える。また採用色については、提案色だと明るすぎて経年変化で色落ちした高欄等とのバランスが悪く、桁が浮いてしまう懸念があることから、明度を落としたほうがよいのではないかと御意見をいただきました。

これら御意見を受け、今回は塗装色彩の追加検討としまして、第1案-2、明度を0.5落としたもの、第1案-3、さらに明度を落としたものの2案を追加して提案をさせていただきました。第1案-3につきましては、前回の会議後に柏尾委員から、念のためもう少し明度を落としたものを検討してみてはどうかという御意見をいただきましたので、今回提案をさせていただきました。

2ページをお開きください。前回の提案色と今回追加いたしました2案の現地でのイメ

ージを載せておりますが、イメージについては、お手元のほうに、A4判の拡大版とサンプルを用意させていただきましたので、それを見ていただければと思います。微妙な違いですので、カラー印刷等も限界があろうかとは思いますが、下端に書いておりますように明度を第1案-3まで落とすことによって、より周辺環境とも調和し、落ちついた雰囲気になったと考えられます。

説明は以上でございます。御審議のほど、よろしく願いをいたします。

○岡河座長

それでは、各委員の先生方ただいまの説明に対しまして質問、御意見等ございましたらお願いします。

○柏尾委員

前回の会議で、委員の方々、みんなで御覧になったものだと思いますが、2段目が提案されてきました。この会議で、経年変化などを考えまして3段目にしましょうということになったと思います。会議終了後、念のためもう少しだけ明度を落としたものを、サンプルとしてつくっておいていただけませんかということで、リクエストに応じていただいたわけです。それがこの2つです。

前回の会議終了後のものと明度が若干落ちます。落ちている明度は、サンプルの3段目と4段目の間の明度をつくっていただきました。4段目まで明度を落とすと橋の印象が大きく変わってしまいますので、そこまで落とすと印象が大きく変わってしまうことで、少しだけ落としたものをつくっていただいたのがこれです。

色の場合、0.5ぐらいの明度の差だったら、（色見本を横に並べて見比べれば）色の違いが分かるんですが、離して、この状態で見た場合は同色に見える。私もこの2色を現地で確認してまいりました。曇りの日、晴れの日、両方確認してきましたけども、この2色の塗板の差でしたら、色の差はほとんど感じられませんから、これはどちらを選んでも同じだと考えてよろしいかと思えます。

どちらにすればいいかですが、今後また補修が必要なときがあるとします。日塗工のサンプルに載ってる番号であれば、すぐリピートできるはずですが、今回明度落としたものをつくったのが、またこれにあわせて調色し直さなければなりませんので、再現性がちょっと難しくなってしまう。その問題が生じそうなので、前回の会議の結果どおりの3段目の色彩でいいんじゃないかなと思いました。どうでしょうか。

○岡河座長

アーティストの鰐澤先生、ちょっとの違いですが、今、どういうお感じですか。

○鰐澤委員

今、私が座った位置から見ると分からないですね。どちらが暗いか全く分かりません。ですから、どっちでもいいだろうという意見、ちょっといいかげんな感じがしますが、先生がおっしゃられた最初の3段目の色でよろしいんじゃないかと思います。

○岡河座長

色の再現性というか、混ぜなければいけないのは、実は意外に大変で。例を言うと問題ですが、広島大学の工学部の塗りかえも違っているんですよ。一生懸命におやりになってもやっぱり、それぐらい色は混ぜるのは難しいなど。公共物ですから、安定した色で次回も塗り替えるのは、1つの論理的な感じがあるかと思います。

橋の御専門の藤井先生いかがですか。

○藤井委員

全面塗りかえだと、どれ塗っても新しくなりますから。

○岡河座長

どれ塗っても新しくなる。

○藤井委員

どれ塗っても、これが85から80になったから違うでしょうという話じゃないですが、部分塗装をやった場合は分かると思いますね。そういう意味では、サンプルが決まって、同じ色が塗れるほうがいいのかと思います。

○岡河座長

部分的に補修するときに、特に。

○藤井委員

ただ、経年とともに色はチョーキングを起こしたりして、白亜化したりして、少し色が変わってまいりますよね。その辺はちょっと私も分かりません。

○柏尾委員

そのときはやっぱり、それであっても合わないですよ。それは仕方ないかもしれない。

○藤井委員

合わすんですかね。これぐらいの差よりも、もっとひどく差が出る可能性がありますね。

○岡河座長

伏見先生どうですか、色につきまして。

○伏見委員

今、サンプルと出力とをいろいろ見せていただいたんですが、本当にこの微妙な差だったら、現場で見るとあまり変わりはないだろうと思います。曇りの日とかお天気の日とかも考えると、そんなに差はないのかなと思いました。

ただ、汚れがつかないようにものすごく表面がきらきらしていますので、光を反射するのがどのくらいなのかなと。思った以上にもしかしたら白く見えるのかなと思ったんですが、現場でござらなってどうだったんですか。

○紙田中区地域整備課長

サンプルですので多少はそういうところがありますが、実際の現場で塗装した場合は、もう少し落ちついた色になるのではないかと考えています。

○柏尾委員

伏見さんのおっしゃっているのは、艶ですよ。

○伏見委員

艶があるので、光ということと、かなり白く見えるかなと思います。

○永井中区地域整備課課長補佐

艶については、施工を行っている会社にも確認したんですが、橋りょうの場合は塗った後、足場を撤去するときに、再度タッチアップが必要となり、そのときに色むらがどうしても生じます。艶指定しても合わなくなるので、そういう施工はなかなか難しく、橋りょうでは、余りそういう事例はないと聞いています。

○柏尾委員

これの艶なしということですね。この艶なし状態で仕上がるという。

○業者

素地に艶はあります。艶は出るんですけど、施工条件によっては多少艶が、ちょっと落ちた感じには見えるとは思いますが。色見本自体を作成しているのは、工場内の温度と湿度とが完全に確保された状態で作っていますので、最も条件のいい状態で作ってある見本なんです。それだけの艶が出ているので、実際に大気にさらされた状態での塗装をして、乾燥を1日待つと、少し艶が落ちた感じになる可能性があると思います。

○柏尾委員

これって、顔料の塗装の上にクリアがかかっているものではないんですか。

○業者

違います、そうではありません。下塗りが3回と中塗りが入って、上塗りという形で塗ります。

○藤井委員

全面塗装されるんですか。

○業者

全面です。

○岡河座長

ちなみに塗装の期間は、この前おっしゃったとき、どれぐらいかかるとおっしゃっていましたか。全部塗り替えるのに。

○永井中区地域整備課課長補佐

全体だと4年程度かかると思います。

○岡河座長

4年ぐらいかかるんですよね、なるほど。結構、大変な工事ですね。長期に渡ってということで。もう一度塗り替えるときも4年ぐらいかかる、何十年後か次のときも。

○永井中区地域整備課課長補佐

今回は長寿命化ということで、40年位もつような材料に変えたんですが、それぐらいもてばいいとは思っています。

○岡河座長

実際に、だけど長寿命の塗装をすると、今回はということですよ。

○藤井委員

フッ素系ですか。

○永井中区地域整備課課長補佐

フッ素系です。素地を出して、C塗装系にやり変えます。

○藤井委員

フッ素系だと艶が出やすいですよ。うまくやれば、顔が写るぐらいになりますよね。

○業者

フッ素は艶が出ます。

○藤井委員

だから先生がおっしゃったように、ちょっと光沢が残るかもしれません。

○伏見委員

これほどじゃないということですね。

○業者

そうですね。それ以上よくなることは、ほとんどありえないと思います。一番いい条件で作成していますので。

○岡河座長

例えば40年間の間に多少、例えばタッチアップして部分的に補修するようなこともあり得るんですか、橋りょうは。

○永井中区地域整備課課長補佐

あり得ます。

○岡河座長

そのときに、できるだけ使いやすいもののほうがいいということになるような気がしますね。そのたびごとに調整するよりは、既製品できちっとあるなら、その番号をきちっと使い続けると。多少、後から塗ったところは、トーンが違ったりするのは致し方ないとしても、やりやすいということですね。

柏尾先生、どうですか。柏尾先生のアドバイスで、基本的には大変品のある色だと思えますので、アドバイザーの色彩の専門家のアドバイスということで。各委員、よろしいでしょうか。

それで決定ということで。

○柏尾委員

1つだけコメントよろしいですか。

今回、相生橋はとても大事な橋梁ですので、これまでのイメージもありますし、これまでの相生橋のイメージを踏襲させてきました。本来であれば、広島橋全体の色彩計画が必要なはずなんです。特に、これからリバークルーズなども盛んになってくると思いますので、リバークルーズやるときに何が感動するかというと、橋の下をくぐるときですよ。そのときに見えるのは橋の裏の色だと思えますので、今後、ぜひ全体的な橋りょうの計画について、そういった機会を持っていただきたいと考えています。

○岡河座長

引き続き、全体の橋の色彩とか下から見たときというのは、課題として進めていかれると私もよいと思います。この事案については、よろしいと思います。

続きまして、議事2に入りたいと思います。議事の2番目といたしまして、平和記念公園ほか1箇所バス停上屋整備事業について説明をお願いいたします。

○紙田中区地域整備課長

議事資料2、平和記念公園ほか1箇所バス停上屋整備事業について説明させていただきます。1ページをお開きください。前回の会議では平和記念公園の上り線と下り線、それから原爆ドーム前の下り線の3カ所のバスシェルの整備方針としてシンプル、アーバン、ハーモニーの3つの方針と、バスシェルのカラーとして、平和大通りの路線色であるクスノキブラウンで統一を図るということで、A案とB案の2つのタイプを提案させていただきました。

この案に対して、委員の方々よりA案、B案の共通事項として、バスシェルター（ストリートファニチャー）は統一したほうがよい。場所的に特徴的なデザインとしてもよい。ミニマルかつシンプルなのがよい。高さを抑えると雨が入りにくいためよい。将来的にバスロケシステムが入るよう配慮したほうがよい。見た目の軽さが出るのは、上部（屋根）を軽いイメージとすることである。屋根を薄くすると軽い印象で、デザイン的にもきれいである。屋根と支柱を1本化したデザインもよい。A案・B案の折衷案が望ましい。

A案に対する事項としまして、全体的な統一感という点でA案がよい。側壁（ガラス）の固定を上下で行う方法（縦柱固定でなく）がすっきりとしたデザインでよい。メンテナンス・遮光など機能性からA案がよい。

B案に対する事項としまして、ガラス屋根は開放感があってよいが、熱さやメンテナンス（落ち葉対策など）が課題である。ガラス屋根は、機能性（日よけ・紫外線対策など）を持たせれば明るく開放感があってよい。ガラスをアンバー系にすれば、柱との統一が図れるとともに、機能性がアップする。縦線（柱）は両端のみが望ましく、側壁（ガラス）固定は上下で行うほうがよいという御意見をいただきました。

2ページをお開きください。いろいろな御意見をいただいて検討した結果、ミニマル・シンプル、支柱は両端のみのすっきりしたデザイン、機能性・メンテナンス・維持管理を考慮という方針のもと、A案をベースにコンパクトで、さらにすっきりさせたC案を作成し、提案をさせていただきました。寸法は分かりやすくするために、外寸法と内寸法を並

記しております。幅については4.2メートルから3.5メートルとコンパクトにし、柱は両端のみのすっきりしたタイプ。前面は見通しをよくすることと、また車椅子での乗り下りに配慮して、できるだけ間口を広くしてほしいとの要望もあり、ガラスパネルは1枚としました。高さは建築限界の2.5メートルに、将来の案内板設置等を考慮した余裕高を確保して、2.7メートルとしております。

現在バスロケーションシステムの計画はありませんが、前回会議での委員の方からの御意見を踏まえ、バスロケーションシステムそのものということではなく、将来の案内板設置などという表現で、余裕を見込む案とさせていただいております。屋根については側面にバス停名称を表示する必要があることから、厚みは前回提案のとおりとしておりますが、下面については明るさと軽さを感じられるよう白色としました。また必要最小限のベンチと側面に暴風暴雨対策ガラスを配置しておりますが、平和記念公園のバス停の北側バス停については、歩道幅員が狭いため右側の図のように側面のガラスパネルがないタイプとしております。

なお、前回提案させていただきましたB案につきましては、左下にありますように、メーカーへの問い合わせ等の結果、両端以外に柱が必要であること、ガラス屋根に着色をしても、落ち葉等のメンテナンス・維持管理に課題が残ることから、参考として掲載させていただきました。

以下3ページから9ページにはC案を設置した場合の、3箇所のバス停のイメージを載せております。3ページから4ページは平和記念公園バス停上り線の車道側から見たものと歩道側から見たもの。5ページから6ページは下り線、7ページは南北軸方向、8ページから9ページは原爆ドーム前バス停でございます。

説明は以上でございます、御審議のほどよろしくお願いいたします。

○岡河座長

それでは、ただいまの説明に対しまして御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

まず、市民の代表で西村さんいかがですか。

○西村委員

私の意見も入れていただき、検討いただきましてありがとうございます。C案というところでは、私は非常にシンプルに、きれいにまとまったと感じております。

○岡河座長

基本的には、天井裏の下からの見上げが少し明るい色になる。

○紙田中区地域整備課長

そうですね、白くすることでちょっと明るく。

○岡河座長

これどれくらいの明るさ、真っ白なんですか、それともグレーなんですか、それを教えていただければ。

○紙田広島市中区地域整備課課長

白です。

○岡河座長

白ですか、明るくなるということですね。

○紙田中区地域整備課長

イメージはそうなると思います。

○岡河座長

フレームがさっきのブラウンで。

○紙田中区地域整備課長

フレームはクスノキブラウンで。

○岡河座長

アーティストの鰐澤先生はどうですか。今、写真を見られて一番、御意見を。

○鰐澤委員

よくできた写真ですよ。

○岡河座長

実際に、立っている感じの。

○鰐澤委員

実際に、使っているような感じがしますね。きれいでいいんじゃないでしょうか。本当にいいものになりましたし、美しいと思いますね。

○岡河座長

鰐澤先生、アーティストですから、感受性が私たちよりは鋭敏な部分で。

岩重さん、どうですか建築的な問題として。

○岩重委員

小さくコンパクトになって、すっきりしてよくなっていると思います。白が真っ白っていうのが、どのくらいの白さにするかというのは、ちょっとあるのかなとは思いますが。

○岡河座長

これは材料を上から塗るのか、それとも焼きつけ塗装のようなものとしてできたパネルを下から張りつけるんですか、工法としては。説明していただければ。

○紙田中区地域整備課長

今、工法は、まだ検討事項です。色自体は既にこのタイプのシェルターがあって、天井が白になっていますから、それで大体見ていただけることはできるかなと思います。

○岡河座長

何となくディテールですが、留めのビスとかが見えない。しかもきちっとした、風で飛ばないようにディテールでおやりになるのが、もし可能ならよいと思います。ちょっとしたことですが。

○紙田中区地域整備課長

はい、分かりました。

○岡河座長

すぐ上ですからね。見上げたところでちょっとのことが、割とビスの十字が見えたりすると、もう少しきれいなものにならないかなと、そんなところをちょっとでも丁寧につくられると本当に違うと思います。

○紙田中区地域整備課長

分かりました。

○岡河座長

一番いいのはガラスにして、メンテナンスで、きれいじゃないなというのはあんまり私、こういうストリートファニチャーとして好ましくないような気がします。特に、原爆ドーム側は大きな木があり、ちょっと心配ですので、大変よい方向になったような気がいたします。

○清田委員

デザイン的な話ではないんですが、台風。風に耐える、風です。大体どのくらいまでの耐風性能を想定されておられますか。

片持ち梁なので、下からあおられるとめくれる可能性があるし、公共性のあるものなの

で、風で倒れたりすると非常にやっかいな話になると思うんですが、その辺のそこはどのように想定をされているんでしょうか。

○紙田中区地域整備課長

申し訳ありません。数字的な説明が、ここでは難しいんですが、このタイプは既に設置されているタイプがベースになっていますので、風でめくれるような心配はないと考えております。

○岡河座長

一応、基本的な建築と同じで、地下に基礎をつくるんですか。

○紙田中区地域整備課長

そうです。

○岡河座長

基礎をつくって、コンクリートの固まりを下でつくって、それに対して差し込んでということですね。後から歩道の仕上げをしていく形になるということですか。

○永井中区地域整備課課長補佐

一旦、掘りかえして基礎をつくります。この場合、アンカーフレームを立て込んで、つなぐような構造になると思います。

○岡河座長

基礎にアンカーをすると。

○藤井委員

それは柱を差し込むタイプですか。材質はどうなっていますか。

○永井中区地域整備課課長補佐

基本は、150のH鋼が基本になってつくられています。

○藤井委員

鋼ですね。

○永井中区地域整備課課長補佐

はい。

○岡河座長

150角のH鋼。

○藤井委員

よくあるんですが、耐久性というか、結構、差し込みタイプで、しかも鋼でといった

ときのつなぎは、コンクリートとの地際がかなり早く腐食します。というので、ちょっと御検討いただけたらと。

アンカーボルトで止めたほうが、どうもすっきりしているというか、耐久性はいいように思います。見た目が今度はちょっと気になりますけど。

○永井中区地域整備課長補佐

アンカーボルト止めで、アンカーボルトの上をコンクリートで覆って、腐食防止するようなディテールになっています。実際に、実施案の説明のときには、細かいディテールは提案したいと思います。

○岡河座長

これは、いつでも、こういうストリートファニチャーというか構造物の問題になると思うんですが、長い間、経年で錆びて、最初はちゃんと計算どおりの強度があるんだけど、やっぱり耐久力ですよ。結局、あるときに大きな台風で持ってかれるとか、それは共通した耐久力の課題だと思います。いろいろなデータがあると思いますので、最善の方法を検討されることを希望します。そのほうがよいと考えます。

○紙田中区地域整備課課長

今後、そういう設計をしていく段階で、当然、基準とか出てまいりますので、それはもちろんクリアした形でのことを考えております。

○岡河座長

ほかに委員の先生で、C案で何かございますか。

○柏尾委員

開放感をもたせるために、天井側をホワイトにするという案はとてもいいと思います。その白、真っ白とおっしゃっていますね。その色を塗装などで選ぶことが可能でしたら、最高明度の白ではなくて、少しでも落とした、同じ白の中でもそういったものを選んでいくほうがいいかと思いますね。

○岡河座長

白もいろいろあるということですね。

○紙田中区地域整備課長

その辺は検討させていただこうと思います。

○岡河座長

ちなみに、同じタイプのバス停で、白はここだけということですか。もし、これができ

たとしたら。

○紙田中区地域整備課長

大体、標準が白です。

○岡河座長

標準が白なんですか。

ほかにいかがですか。

○西村委員

歩道の狭さを考えて、北側の上り線のところだけが横の風防がないですね。

○岡河座長

ないですね、風防がないですね。

○西村委員

ほかの2箇所は、将来的に、バスの切り込みなどの計画はないのでしょうか。現状のままの歩道が確保できるのであれば、この案でもいいですが、もしそこにバス停の切り込みが将来あって、歩道が小さくなることであれば。

○紙田中区地域整備課長

ここは現在、4ページにC案の案があるんですけども、バス停の切り込み自体は既にあります。

○岡河座長

ありますね、基本的には。4ページのC案の写真です。

○西村委員

ほかの2箇所には、そういう計画が将来あるのでしょうか。

○紙田中区地域整備課長

原爆ドームの前は、切り込みが今のところはないです。今の段階で、いつバスの切れ込みができるかどうか、私も持っていません。

○西村委員

それを考えたときに、果たして、横の風防あったほうがいいのか、ないほうがいいのかということを、ちょっと考えました。

○紙田中区地域整備課長

もしそういう事態が発生したとすれば、残りの歩道幅員の確保を考えながら、基準に合うようなものを設置していくようになると思います。

○岡河座長

藤井先生。

○藤井委員

何度も細かいことで済みません。7ページで分かると思いますが、右側の柱に雨どいですか、配水パイプが出ているのでしょうか。付いているのかなと思いますが、こういう雨どい、基準があるのかもしれませんが、こういうのは自分の足を錆びさせるためにつくつてくるような感じですよ。

○紙田中区地域整備課長

パネルが見えています。

○藤井委員

パネルが見えているだけですか。水じまいは、そのままこう後ろへ垂れてくる。

○紙田中区地域整備課長

柱の中に。

○藤井委員

柱の中、分かりました。すみません。

○岡河座長

柱の中というのは、H鋼が150なので、ドレインのパイプはどれぐらいの径なんですか。ついでに教えていただければ。外からは見えないですよ。50とかそのぐらいの感じですか。

○紙田中区地域整備課長

そんなに大きくないと思います。

○岡河座長

大きなものは、入らないですよ。H鋼だから。150の外を仕上げているわけですよ。半分だから75から厚みを引いたぐらいだから、あまり太くないものが中に入っているということですね。でも外にだったら、また結構、蹴飛ばされたりとか、ろくなことにならないですよ。中で処理をするのは正解だと思います。

ほかに意見ございますか、各委員の先生。

基本的にはC案で、先ほどの幾つかのアドバイスで、一番大きいのは、藤井先生からのアンカー、下の基礎との取り付け方の耐久力だと思います。もう一つは白の色、上の。色も柏尾先生からアドバイスがあったと思いますので、その辺を総合的にきちっと対応し

ていただいて、C案でいっていただくということで、各先生よろしいでしょうか。

今日の第2の議案もオーケーですので、それでは、本日予定しておりました議事については以上でございます。お疲れさまでございました。では、よろしいですね、各委員の先生。

それでは、平成26年度第3回広島市都市デザインアドバイザー会議を終了いたします。議事進行を事務局にお預けします。よろしく申し上げます。

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

本日はお忙しい中、お集まりいただき貴重な御意見、御提案をありがとうございました。中区地域整備課には、本日いただいた御意見を参考にして、今後の事業を進めていただきたいと思います。

以上でございます。本日はお疲れさまでした、ありがとうございました。

○岡河座長

どうも、ありがとうございました。